

## 我孫子市立湖北小学校 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果

### ① 成果と課題

#### 国語

前回（令和元年度）と比較すると「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域で平均正答率の向上が見られました。特に「書くこと」については、本校の教職員研修のテーマとして取り組んでいることもあり、大幅な向上が見られました。その中でも、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題は、正答率が全国や県の平均正答率よりも比較的高くなっています。

しかし、「読むこと」については、全国平均や県平均と比べて正答率が低い傾向があります。内容の中心となる事柄を把握したり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したりする問題は苦手なようです。「書くこと」においても、目的や意図に応じて、理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率が下がり、課題となりました。また、選択式の問題に比べ、短答式・記述式の設定では、やはり正答率が低い傾向があります。読み取った情報を元に、自分の考えと比較しながら考えを述べたり、書き表し方を工夫したりする活動にも、より力を入れていきたいと思ひます。

#### 算数

前回（令和元年度）と比較すると、どの学習指導要領の領域においても平均正答率の大幅な向上が見られました。領域別に見ると、「数と計算」「図形」「測定」領域に関して、大きく向上しており、全国や県の平均正答率を上回りました。既習事項の復習を丁寧に行い、それを生かして学習活動を行ってきた成果と思われまひます。解答形式別では、選択式・短答式・記述式の全てで向上が見られ、特に記述式の伸びが顕著です。算数にも、国語の「書くこと」の取り組みが好影響を与えているものと考えられます。

課題としては、総合的な正答率では、全国や県と比べ、まだ差がひらいていることです。「速さ」や「割合」を求める問題の正答率が著しく低い傾向が見られました。また、伸びが見られた記述式の問題でも、正答率のさらなる向上が見込めまひます。基礎・基本となる知識の定着が見られるので、より発展的な問題や複数の情報を整理して考える問題などにも取り組ませたいと思ひます。そして、苦手意識をもっている児童への個別支援を充実させたり、基本となる計算問題に取り組ませたりして、さらなる学習展開の改善に努めていきます。

#### 質問紙

「国語への関心等」、及び「算数への関心等」、「規範意識」の分野が、全国平均を上回っていました。前回までの、本校の数値と比較しても上回っており、ご家庭の協力のおかげだと感じております。今後ご協力をお願いいたします。

一方で、「自己有用感」の分野が低い傾向にあります。「夢や目標をもっているか」という質問については、「どちらかというも持っていない」という児童の割合が、全国平均に比べるとやや高い結果となりました。また、「1日あたりのゲーム等の利用時間」を聞く質問では、かなり

多くの時間を費やしていること、「読書の時間」を聞く質問では、1日のあたりの読書時間がやや短いことなどが、本校の特徴として表れました。

継続的に自主学習に取り組めるように励ますことで、学習への意欲は向上してきていると思ひます。「自己有用感」については、自分の役割や責任を自覚させ、できたことへの称賛を積み重ねていくことで、本人の経験値と自信につなげていきたいと考えています。それと同時に、望ましい仲間作りについても声かけを続け、自らトラブルを解決したり、善し悪しを判断したりできるよう、指導していきます。今後も、教員間だけでなく、保護者・地域の皆様とチームとなって指導に当たっていきたく思ひます。

### ② 今後の取組について

学力の向上のため、課題に向けて以下のような方策を立て、取り組んでいきます。

#### ○言語活動の充実

今年度も、研究教科に国語科を位置づけ、「書く力を高める言語活動の研究～身につけた力を活用しようとする子どもの育成～」をテーマに、年間を通して継続的に言語活動に取り組んでいます。書く活動を行う際には、相手意識や目的意識をもって伝えたいことを明確にする指導を実践しています。それに加え、国語科で学んだことを他教科や日常生活にも活かせるように活動しています。そのためには、子ども達が身につけた力を自覚することが大事だと考え、学習を振り返る活動を取り入れています。できるようになったことやもっと知りたいことを学習の最後に振り返り、学習をより深めていけるようにしています。そして、様々な場面で、身につけた力を活用したり、自信を持って取り組んだりできるよう励ましていきたいと思ひます。また、読書活動を奨励し、学校や家庭でも進んで読書に取り組んでいけるよう声かけを続けていきたいと思ひます。

#### ○学習サポーター・スクールサポーター・少人数指導教員等の活用

1～2年生には学習サポーターが入り、算数を中心とした学習の支援を行っています。3～6年生には、スクールサポーターや少人数指導教員が入り、こちらも算数を中心とした支援を行っています。学年が上がるにつれ、苦手意識を持ちやすい教科ですので、基礎基本となる知識や計算の力を確実に身につけられるよう、複数の教員で協力しながら学習を進めています。

#### ○教職員研修の充実

例年、湖北小では、教員の授業力向上をねらいとし、初期層教員研修を設定しています。また、全国学力・学習状況調査の問題を分析したり、重点とする指導事項を確認したりして身につけさせるべき力を共通理解して授業を進めていきます。そして、家庭学習の充実を図るために作成した「家庭学習の手引き」の活用を進めていきます。

家庭におかれましても、配付済みの「家庭学習の手引き」を参考にいただき、家庭学習のさらなる充実を図っていただきますようご協力をお願いいたします。

また、日頃から本校の教育活動に対し、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。今後も宜しくお願ひいたします。